

地域の人材と連携した教育活動

山梨県立ひばりが丘高等学校

1 地域人材を活用した取り組み

本校では、長年にわたり地域の人材と連携した体験活動を実践してきた。特に「ひばりのドリカムプラン」は、生徒の自己肯定感・自己有用感の涵養や粘り強さと継続性、人と関わる力の育成を主眼に、平成22年にキャリア教育プランとして開始したものである。それ以来、生徒の就労意識や社会貢献の意識を高める一助となっている。その活動内容は多岐にわたっているため、本稿では2点に絞って紹介したい。

2 創作授業

毎年、7月下旬の夏休み直前に、一週間をかけて取り組んでいる。今年度は、7月14日に事前指導を行ったあと、15日から18日の4日間で実施した。



絵画の作品

1・2年次生は、「個で作品を完成し、達成感を味わう」ことをねらいとし、切り絵、陶芸、染め物、絵手紙、かご作り、絵画の6部門の中から各自が選択した部門の創作に取り組んだ。このなかでかご作りは、本年度から新たに導入したものである。

3年次生は、「集団で協力し互いに作品を完成させることで、他人と協力しながら個々の作品を完成させる喜びを味わう」ことをねらいとし、全員で協力しながらそれぞれの刻字の作品を制作した。昨年度は教育祭にて優秀賞・金賞を獲得している。完成した作品は、校内の玄関付近にあるショーケースに展示され、生徒・職員および訪問者の目を楽しませている。

4年次生は、「集団で協力して完成した作品が、公共のためになる喜びを味わう」ことをねらいとし、木工作品の製作に全員で協力して3台の本棚を製作した。かつては、出来上がった本棚やベンチは、地域の小中学校等に寄贈してきたが、平成4年度からは、本校の隣に新設された民間の複合型福祉施設に寄贈している。寄贈の様子は、地元の新聞でも紹介された。



製作した本棚を寄贈

夜間部の1～4年次生は、「個で作品を完成し、達成感を味わう」ことをねらいとし、昼間部より在籍生徒数が少ないことから、陶芸、絵手紙、刻字、絵画の4部門に絞り、各自が選択した部門の創作に取り組んだ。

これらの講師には、地元で活躍している専門家を招いており、地域の人材を活用することによって、年次ごとのねらいを達成できている本校独自の稀有な授業であると捉えている。

3 総合的な探究の時間

年次ごとに、テーマを決めて取り組んでいる。「地域を知ること」と「自己を探究すること」が、大きなねらいである。

1年次生は、「うどん探究」を行っている。本校の活動として、一般の方にも広く知られているのは、「うどん」であろう。ただ、これはうどん部としての部活動なので、それを生徒全体に広げるために、カリキュラムに組み込み、1年次生全員で取り組んでいる。そこでは、地元うどん店の経営者から生の声を聴き、うどんを通して地域の産業や歴史を学んだり、商品開発について専門家から学んだりしている。さらに、うどん部顧問とうどん部員の指導のもと、実際にうどん作りを体験し、この地域特有の食文化を継承する活動となっている。



うどん作りに集中する1年次生

2年次生は、「地域探究」をテーマとして設定し、本校の所在する富士吉田地域の歴史・文化・自然を広く知ることをねらいとしている。1年次に「うどん」を通して掘り下げた地域の探究を、横に広げる取り組みであり、縦糸と横糸が絡み合うことで郡内織ができあがっていくような関係になっている。具体的な活動としては、花・野菜づくり、地域史の語り部による講話、富士吉田市商工会青年部協力の下、地域の産業人による講話等によって地域理解を深め、最終的には NPO 法人「かえる舎」の協力のもとで、富士吉田市の名所や産業等を踏まえたかるた制作を行っている。

3・4年次生は、「自己探究」をテーマとして、2年次で探究した地域と自己との関わりを深めつつ、自身の進路希望先の実現に直結するスキルの育成を図っている。接遇講話や着こなし教室などの社会人として身につけるべき素養や職業理解など、進路先を決定するためのポイントなどをそれぞれの専門家を招いて学んでいる。イメージとしては、2年間をかけてできた織物をもとに、衣服や袋などの立体的な製品として仕立て上げ、店頭で売り出していくといったところだろうか。



姿勢正しく接遇練習

なお、夜間部の1～4年次生も、昼間部のカリキュラムに準ずる形で取り組んでいる。本校の生徒は、卒業後に地元の企業に就職する者が多い。県外に進学する者もいるが、卒業してから地元に戻ってきて就職することも多く見られる。したがって、総合的な探究の時間で地域について学習しておく意義は、大きいと考えている。

4 次年度への展望

今年度から本校でもコミュニティ・スクールがスタートした。今まで以上に、学校・家庭・地域の連携・協働が進められていこう。今年度までの成果を生かしつつ、地元と密着した教育活動を、さらに発展させたいと考えている。